

ラグビーにおけるバックス選手のポジション別プレー様相の変様

ーラグビーワールドカップ 2015 年から 2023 年大会を比較してー

大畑 亮太 (筑波大学)

1. 目的

本研究は、ラグビーワールドカップ(以下、RWC) 2015 年, 2019 年, 2023 年におけるバックス選手(以下、BK) のポジション別パフォーマンスからポジションに求められる役割や変様を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

1) 標本: 2015 年, 2019 年, 2023 年の RWC の決勝トーナメントおよび予選プール計 47 試合

2) 分析項目: キャリー(以下, Carry), パス(以下, Pass), タックル(以下, Tackle), キック(以下, Kick), チェイスタックル(以下, Chase Tackle) アタックラックサポート(以下, ARS), ディフェンスラックサポート(以下, DRS) の 7 項目と攻撃権の有無から Carry, Pass, ARS の合計をアタック(以下, Attack), Tackle と Chase Tackle, DRS をディフェンス(以下, Defence) とした。

3) 結果の処理方法: プレー頻度は両チームのボールインプレーの時間を測定し, 換算値を算出した。

3. 結果と考察

1) BK 全体では Tackle 数が 2015 年の 4.3 回から 2019 年に 5.5 回, 2023 年に 5.9 回と有意に増加し, Defence は 2015 年から 2023 年に 5.4 回から 6.8 回と有意に増加した。防御がプレッシャーを攻撃側に与える傾向が増し, BK の Tackle と Defence の重要性が影響したことが予想できた。一方 Attack の頻度には変化が見られず Defence の役割が強化されている傾向が示された。

2) ポジション別に見るとスクラムハーフ(以下, SH) とウィング(以下, WTB) において顕著な変化が認められた。SH は Kick が 2015 年の 2.9 回から 2023 年の 5.4 回へ有意に増加しているが, これは整備された防御システムを崩すために, SH か

らのコンテストキックの使用が増加している影響が予想される。また, Tackle が 2015 年の 4.1 回から 2019 年の 6.3 回, 2023 年 7.8 回へ, Chase Tackle では 2015 年の 0.1 回から 2023 年の 0.7 回へ, Defence が 2015 年の 4.7 回から 2019 年の 7.2 回, 2023 年の 9.0 回と有意に増加した。SH の Tackle や Chase Tackle, Defence が増加したのは, 2023 年により SH がディフェンスラインやキックチェイスに参加してよりプレッシャーをかける傾向が増したため, Tackle を行う機会が増加していると考えられる。WTB では Tackle が 2015 年の 3.1 回から 2023 年の 4.6 回へ, Chase Tackle は 2015 年の 0.8 回から 2019 年の 1.1 回, 2023 年の 1.2 回へ, DRS は 2019 年の 0.7 回から 2023 年の 1.4 回へ, Defence は 2015 年の 4.1 回から 2023 年の 6.0 回へ有意に増加した。つまり Defence のすべての項目で有意な増加があった。キック後に発生する Chase Tackle で有意な増加を示したのは SH と WTB のみであり, DRS の有意な増加が示されたのは WTB のみであることから, 近年の SH と WTB にはプレーの変化があったことが推察される。

4. 結論

1) BK 全体としては Tackle と Defence が 2015 年から 2019 年, 2023 年にかけて有意に増加した。Attack での有意な減少がなく, これらの有意な増加があったため, BK は 2015 年から 2019 年, 2023 年にかけて防御での重要性が高まっていることが明らかになった。

2) ポジション別では特に SH と WTB が Tackle, Chase Tackle, Defence で有意な増加を示し, 防御での変化を明らかにした。WTB はさらに DRS も増加を示して防御の変化が顕著であった。SH は Kick でも役割を増加させ, 2023 年にかけて様々な役割を増やした。